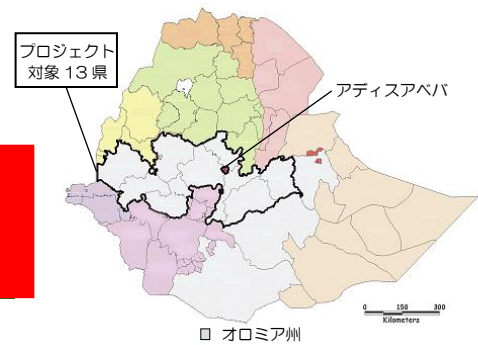




Ho! ManaBUしんぶん

2011.9.5 No.34

子どもの笑顔に会うために！



オロミア州教育フェスティバル

～ 今年も隊員の皆さんと一緒に参加しました ～

エチオピアでは、9月から始まる新学期を控えた8月末から9月上旬にかけて、毎年、各州で教育フェスティバルが行なわれます。オロミア州では、今年も例年通り、ナザレット市（アジスアベバ市から南東約100kmに位置）のオロミア州庁舎を会場として、8月22日から4日間にわたってオロミア州教育局（OEB）主催による教育フェスティバルが開催されました。OEB、県、郡、特別市の教育事務所の行政官や小中学校、職業訓練校、教員養成学校の教員など、およそ1,000名が一堂に会した今年のフェスティバルでは、オロミア州の教育開発状況の報告や新年度の計画の発表、地域性と教育水準の関連性や校内暴力についての事例発表などが行われました。Ho! ManaBUは一昨年、昨年に続いて今年もフェスティバルへの招待を受け、プロジェクトスタッフが手分けしてこれらのセッションに参加しました。

フェスティバル最終日の表彰式では、国家試験で優秀な成績を収めた児童や生徒、住民を巻き込んでの活発な学校運営を展開する学校などが表彰されました。これらの学校の中には、Ho! ManaBUが支援する学校も入っていて、プロジェクトとしても、とても嬉しく思っています。

また、フェスティバルでは、プログラムの一環として、教育統計や日頃の教育活動の展示会も催されました。フェスティバル初日に、OEB局長のダバ・ダバシ氏によるテープカットが行なわれた後、ダバ局長を



Ho! ManaBUのブースで説明を聞くダバOEB局長（中央）とマルカ副局長（左）。前OEB局長のエシェツ氏（右）は来賓として参加。各ブースをひとつひとつ丁寧に回っていました。

はじめとするOEB職員や来賓の一行が各展示ブースを見て回りました。来賓の一人には、前OEB局長のエシェツ氏（現在は大統領府勤務）もお見えで、プロジェクトの面々との久しぶりの再会を喜び合いました。

Ho! ManaBUは、昨年に引き続き、展示会にも参加し、教育事務所やナザレット市内にある中学校の展示ブースに並んで、Ho! ManaBU研修の展示や研修デモンストレーション、視聴覚教材の映写、パンフレット配布などを行い、広報活動に努めました。また、今年は、青年海外協力隊員の活動との連携の一環として、理数科教育のボランティアの皆さんの参加の調整にもあたりました。特にフェスティバル初日には、大勢の参加者が展示会場を訪れ、色とりどりのHo! ManaBUの展示物と理数科の実験には、いつも多くの参加者の輪ができ、JICAのブースはどちらも大盛況でした。



Ho! ManaBUのブースは、Ho! ManaBU研修のデモンストレーションやビデオ教材の映写、パンフレットの展示と盛りだくさん。大勢の参加者でにぎわいました。

余談になりますが、毎年、教育フェスティバルの開催にあたっては、主催者であるOEBが、広報課を中心に多くの職員を動員し、休日返上で準備にあたります。しかしながら、今年はフェスティバル前日になってもプログラムもできておらず、今ひとつ盛り上がり欠ける感じ...。「大丈夫かなあ」と心配していたのですが、いざフェスティバルが始まってみれば、展示会場には、教育統計や展示作品が次々に展示され、「ズンチャチャ、ズンチャチャ」というプラスバンドの演奏のもと、ダバ局長が出迎えられ、テープカットも大成功(もっとも、局長一行の到着が遅れに遅れ、テープカットは大幅に遅れたのですが)。翌日からの各種発表や表彰式

*Ho! はオロモ語でHoggansa（運営）の最初の二文字、ManaBUはMana Barnoota Ummataa（コミュニティの学び舎）の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

などもスムーズに行われました。こういうところが、エチオピア人の不思議なところ。計画しなくても土壇場になると、「えい、やっ！」でできてしまうのか、それとも、計画していないようで、実は、頭の中ではしっかりイメージができあがっているのか...。エチオピア人のこの行動様式、皆さんはどう思われますか ???

オロミア州教育フェスティバル体験記

～ 子どもたちが瞳をキラキラさせる場面をつくる大切さ ～

Ho! ManaBU と共に教育フェスティバルに参加した理数科教育のシニアボランティア (SV) の佐藤さんと東田さんがフェスティバル参加の感想を投稿してくれました。

佐藤 厚一

SV 理数科教育、メキ小学校

東田 晴弘

SV 理数科教育、モシヨ No1 小学校

子どもを含め、JICA のボランティア (青年海外協励隊とシニアボランティア) の 7 名が今回の教育フェスティバルに参加させていただきました。

今回のオロミア州教育フェスティバル参加にあたっては、Ho! ManaBU プロジェクトからお誘いを受け、エチオピア国内に赴任する理数科のボランティアのうち、オロミア州に配属されている 2 名が展示会場でデモンストレーションを行うことになりました。私もボランティア理数科隊員にとって良い機会を与えていただき本当に感謝しております。

私たちのブースは、Ho! ManaBU の隣にあてられ、ここで理数科の展示や演示実演を行いました。展示物は、エチオピアに来て、この 1 年間に作製した実験道具で、作り方は至って簡単、材料も入手しやすい物ばかりです。演示実演をしながら、見学者にその仕組み、作り方を説明しました。入場者は初日が一番の大入りで、OEB 局長・副局長にも実際の器具を見ていただく機会を持ってました。また、テレビ局の取材も受けました。



オロミアテレビ局の取材を受ける東田 SV (上)。佐藤 SV の演示にマルカ副局長 (中央) も教員達 (下) も興味深々。

今回、オロミア州のこれだけ大きなイベント会場の

場で、私たちの理科活動を知ってもらえたことは、この地方の多くの理科関係の先生方に一定のインパクトを与えたのではないかと思います。われわれ 2 人の手が回らない時は、Ho! ManaBU のスタッフに替って説明していただいた場面もありました。

「楽しくなければセミナーは続かないよ」という言葉を Ho! ManaBU プロジェクトの皆さんから学ばせていただいた私たちです。展示会場に来ていた中学校の生徒が何度も実験を見たり、実験器具を触ったりする姿を見て、中途退学をなくすためにも、理科授業の中で子どもたちが瞳をキラキラさせる場面をつくる大切さを再確認しました。

この経験を後輩隊員にも伝え、これを足がかりに活動がますます高まっていければと願っています。

フィールドでの仕事

～ シニアフィールド・コーディネーターのチャレンジ ～

先月のしんぶん 33 号では、Ho! ManaBU に新しく仲間入りしたフィールド・コーディネーター (FC)、又ワイを紹介しました。今回は、エチオピアですと JICA 教育プロジェクトに携わっている、ハイレこと、ハイレルエル・エリアスを紹介します。

はじめまして。Ho! ManaBU プロジェクトのシニアフィールド・コーディネーターのハイレルエル・エリアスです。Ho! ManaBU プロジェクトには、2009 年 1 月から FC として仲間入りしました。その前にも、JICA の住民参加型基礎教育改善 (ManaBU) プロジェクトで 2005 年から 2008 年までアルシ県の FC として働いていました。

Ho! ManaBU での主な仕事は、学校で行なわれる研修や、郡・特別市教育事務所によるモニタリング報告など、現場での Ho! ManaBU の活動状況を調べること、この調査結果をプロジェクトチームに報告して、研修教材の改訂や開発のための情報を提供すること、そして、オロミア州教育局とプロジェクトが毎年主催するファシリテーター研修やモニタリング報告研修の開催準備や研修の進行役を務めることなどです。2010 年 6 月からは、これまでの FC としての実績が評価され、シニア FC に昇格し、他の FC を管理しながら、現場で得られた情報のまとめ役を担うことになりました。

私がこれまでの活動を通して感じている課題は、①ファシリテーター研修に参加した地方教育事務所の行政官、クラスター・リソース・センター (CRC) 担当官の頻繁な人事異動により、現場での Ho! ManaBU の活動が定着しない、②地方教育事務所、CRC、学校レベ

ルの各担当者のHo! ManaBUの活動実施に対する責任意識にばらつきがある、③各FCが管轄する地域内のCRCの数が多すぎて十分なモニタリング活動ができない、などです。

これらの課題に対しては、以下のような点に心がけながら、今後の活動に取り組んでいきたいと考えています。①地方教育事務所の行政官やCRC担当官、校長に対して、Ho! ManaBU研修などの活動の好事例や情報共有を積極的に行なうよう指導する、②これらの関係者と頻りに連絡を取り、Ho! ManaBUの活動やフォローアップを奨励する、③できるだけ多くのモニタリングを行えるよう、一回の出張で2つ以上のCRCを訪問したり、電話で事前に得られる情報は先に情報集めたりして効率よい調査を行なう。

プロジェクトも残り1年となりました。プロジェクト目標の達成に貢献できるよう、これからもシニアFCとしてのスキルを一層磨きたいと思っています。



学校での聞き取り調査を行うハイレ(右)。ManaBUでは若手だったハイレも、今や、すっかりベテランです。

<後日談> 先月のしんぶん33号で、プロジェクト開始当初からの構想であったFC3名体制がやっと完了したというニュースをお伝えしました。ところが...。新しく

採用した2名のFCのうち1名が、先月、突然、「9月から大学院に通うので辞めたい。」と仰いだし、任地着任から一か月もたたないうちに退職してしまいました。これから、現場のモニタリングを強化していこうと思っていた矢先の出来事でとても残念です。FC3名体制はつかの間の夢で終わり、これから、また担当地域の分担を再検討しなければなりません。やれやれ...

いよいよ、4年目に入ります！

～最終年も元気にフル回転～

学校と地域住民の協働を通じた学校運営改善を目指し、2008年9月に始まったHo! ManaBUプロジェクトも、早いもので今月、最終年となる4年目を迎えます。2011/2012も、これまで同様、プロジェクトはフル回転、大きな活動が目白押しです。以下、これから予定されている主なプロジェクト活動を紹介します。

<Ho! ManaBU研修「計画策定・行動」の実施>

皆さんもご存じのように、これまで、Ho! ManaBUでは、「啓発」(ステップ1)、「問題分析」(ステップ2)をテーマにしたHo! ManaBU研修を開発してきました。

今年は、最後のテーマとなる「計画策定・行動」(ステップ3)の研修を開発し、「啓発」「分析」「計画策定・行動」の研修シリーズを完成させる予定です。さらに、これらのテーマ別研修を効果的に活用するための「統合パッケージ」(仮称)の開発も計画しています。来年2月には、新しく開発した研修の進行役を育成するファシリテーター研修を開催し、その後は、学校レベルでの研修実施のモニタリングへと続いていきます。

<OEB主体計画の実施支援>

オロミア州教育局(OEB)がHo! ManaBU研修を州内の10,000校以上ある全小学校に普及していく「OEB主体計画」については、これまでもしんぶんでお伝えしていますが(関連記事しんぶん28号、33号)、現在は、その第一弾として中途退学と女子教育についての啓発をテーマにした2つの研修を普及するための準備が進んでいます。8月末までに研修教材の一部がOEBに納入され、これから、OEBスタッフからなるOEB主体計画実施委員会(元「OEB主体計画策定委員会」)メンバーと、10月から11月にかけて予定されているファシリテーター研修やその後の学校レベルでの研修のモニタリングの具体的な進め方を決めていきます。プロジェクトでは、このプロセスを継続的に後押ししながら、「統合パッケージ」までのHo! ManaBU研修のシリーズをOEBが主体的に普及できるような体制作りを支援していきます。

<Ho! ManaBUの活動の実施状況モニタリング>

Ho! ManaBUでは、通常のモニタリング活動を通じて、学校レベルで行われる研修やプロジェクトが支援するクラスター・リソース・センター(CRC)に供したコンピューターや視聴覚教材などの使用状況、そして、プロジェクトで編集・発行している投稿雑誌ODA(オダ)の普及状況を調べています。また、11月から現地コンサルタントを雇用し、より包括的なモニタリングを行い、これまでのプロジェクトの活動の成果や課題を調べていく予定です。このモニタリングの結果は、OEB主体計画を効果的に実施していくための参考資料として使われます。

というわけで、Ho! ManaBUは、最終年も大忙し。寒いエチオピアで冷や汗をかきながら(?)、広いオロミア州を、あちこち走り回る日が続きます。これからも、しんぶんではこれらの活動の様子をお伝えしていきます。ご支援のほど、どうぞよろしくお願いします！